

お茶新聞

東京の真ん中で茶園

「ー」(はじめ)六本木ヒルズ
にびつくり!東京で茶園
手もみ?

去る3月中旬に、親戚の結婚式出席のため東京に行きました。半日あいたので昔の友達と、何か見に行こうということになり、エー 長者を見るべく六本木ヒルズに行きました。私も昔このあたりでバイトしていたので、その変わりようにも驚きました。なんと六本木の地下鉄降りたあたりから、お茶のペットボトルの新製品「ー」(はじめ)の巨大な広告、しかも私のおなじみの茶園や、茶農家の風景ではありませんか、それだけでなくその敷地内で、キャンペーンのお姉さんによる手もみ実演のイベントまでやっていたのです。蒸した茶葉を何回か揉ませて、「こうやって6時間くらいでお茶になります」と簡単な説明もしていました。となりで農家のおじさんらしき人が茶の木の先をさみで切つて、「植えておくと、お茶の木が育つよ」といつて渡していました。その場で粗品も渡していました。かなりの行列ができていました。そんなのが、イベントになるのだと、正直驚きました。私たち、年は若いですが、手もみの資格まで持っているものが、がんばって、揉んでいても、これほど人は、集まりません。



2005年
新茶号

発行元
亀山市辺法寺町
811
市川大楽園製茶
お茶新聞編集部
電話 0595-85-0321
FAX0595-85-3005
<http://www.shopmie.com/dairakuen>

ただ都会に住む人は、ふだん田んぼや茶園など見る機会はないでしょう。だから、なんとなく心が落ち着くのかもかもしれません。東京で「ー」(はじめ)のペットボトルを買ったら、ついでにたのは茶園のフィギュアでこんなものもらってどうするというものだったけど、小学4年生になる息子に見せたら、喜んで机の上に飾ってました。私はお茶って地味なもんだと思っていました。しかし見方を変えると面白いもんだなと思いました。

フィギュアと ヒルズでのイベント



今年の、新茶は少し 遅くなりそうです。

桜に咲き出したころに花冷えがあつたせい、桜が遅くまで咲いていました。近頃は小学校の入学式には、桜は散つてるのが普通でした。お茶の芽もいつもより遅れています。亀山市内のお茶農家がお茶の製造を始めるのはゴールデンウィーク後半になりそうです。今年は、3月から気温が低く、4月になつても極端に暑い日は少なく、今のところ適当に雨もあるのですが、味の濃いお茶ができるのではないかと、ひそかに期待しています。

防霜(ぼうそう)ファン



茶畑便り お茶の大敵、霜対策について

上の写真のような扇風機のようなものは、防霜ファンといえます。制御盤から出ているセンサーが、一定以下になると作動して、ファンをまわします。十メートルの温度の高い空気を茶園に吹き付けて、霜の付くのを防ぎます。3月の中旬前後に、スイッチを入れて刈り取りまで入れておきます。霜は晴れた日の風のないときに放射冷却によって朝、降りるので、昼間、天気の良い日が、霜が降りやすいのです。それでも朝、気温が下がりきらないと、「水霜」(みずしも)と行って、露は付いてぬれているけど、凍つてない状態になり、被害はありません。凍っていると茶園の表面が白く見えます、この状態に太陽が当たって温度が上がつてくると、新芽が茶色く焼けて、被害になるのです。危ない日には夜中でも、茶園を回って、ファンが止まっていないうか、見て回り動いてない、ファンを見つけたら、自分で、(特に夜中は修理を呼びにくいので)修理をすることになります。私も、部品が足りずに、ほかのお茶農家の人を夜中に起こして、部品を分けてもらったり、暗闇の中、ファンの付いている鉄柱に上らなければならなくなつた、こともありました。雨や、曇りの日は霜は降りてないけど、気温が低くファンは回ることもありますが、そんなときも、めんどろですが、電気代を惜しんでスイッチを切りに行きます。設備があつても、管理は大変です。